



校長室だより

自立に向かって「自分から」

学校と家庭・地域を結ぶ架け橋通信

第10号 令和4年9月12日

小美玉市立美野里中学校

美中祭（体育祭） 躍動する生徒たち ～「コロナ」が奪ってきたもの～

9月8日（木）、前夜雨が降り続きましたが、当日早朝に雨が上がり、実施を判断しました。その後は、雨に降られることなく、むしろ涼しく、運動に適した天候となりました。

生徒たちは、前日できなかった準備をてきぱきとこなし、開会式からスタートしました。

昨年度は、コロナ禍のため、美中祭は学年ごとの実施となってしまいました。実行委員長の話や選手宣誓の中で、「コロナ禍で我慢を強いられてきたが、今日は思い切り美中祭を盛り上げたい」という気持ちが表明されました。

事前から、先生方のご指導の下、生徒たちは「自分たちの美中祭」を意識して、学級旗作りや係活動も進んでいき、開催前からやる気が高まっていました。

競技は、個人種目から始まり、団体種目では、他学年の種目を応援し合う姿も見られました。

昼食後の部活動対抗リレーでは、ユニフォーム姿の運動部に混じって、様々な衣装を身に付けた演劇部や美中バックをバトンにして激走する帰宅部など、笑い声のあふれる中、楽しいリレーを行うことができました。（教職員チームも参加し、誰一人アキレス腱を切ることなく走りきりました。）



生徒たちの顔には、心から楽しんでいる笑顔や、係活動を一生懸命取り組んでいる真剣な表情がありました。

先輩・後輩の微笑ましい交流も見られました。なかなか部活動以外で、交流できなかった他学年同士の活動は、美中生としての絆を深めたに違いありません。

笑顔や交流、一体感。そうしたものが、このコロナ禍の2年半の間に制限されてきたものだったのではないかと改めて感じさせられました。

ICTなど、このコロナ禍の中で進んだものも確かにあったと思いますが、「人と人との関わり」は、今後どのように回復させていくのか、みんなで考えていかなければなりません。

今回の本校体育祭のように、「楽しみながら一つのことをやる」というシンプルな営みこそが、人の生活に潤いや生きがいをもたらすのではないのでしょうか。その喜びがあるのとなないのでは、生活が大きく変わるように思います。

Pricelessである「心豊かに生きること」「平和に生きること」この視点をなくしてはいけないと思います。一人一人が、「心豊かに生きるにはどうしたらいいのだろう」「人といがみあうことなく穏やかに生きるためにはどうしたらいいのだろう」ということを追究していけば、どんな素晴らしい世の中ができるのかと思います。

先日集計された「令和4年度 全国学力・学習状況調査」質問紙の回答の中で、本校の生徒は、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」という問いに、肯定的に答えた生徒が、平均を上回っています。SDGsへの関心が高いことも本校の特徴です。そうした「心豊かに生きること」「平和に生きること」「他の人のために貢献する」といった「心の芽」を大切にしていきたいと思っています。

話が飛躍してしまいましたが、今回の体育祭にも、この「心の芽」が至るところで感じられました。我々大人は「育てる」「支援する」力を、子供たちの「心の芽」にフォーカスしていきたいものだと思います。